

各地からの たより

各地の取り組みを
ご紹介します

- 由利森林管理署
- 秋田森林管理署 湯沢支署
- 技術普及課
- 岩手北部森林管理署

子吉川流域において低コスト木材 生産技術現地検討会を開催

由利森林管理署

秋田県子吉川流域の林業関係者による「低コスト木材生産技術現地検討会」を10月7日(金) 由利本荘市鳥海町の国有林等を会場に開催しました。

当検討会は、毎年、由利森林管理署と子吉川流域林業活性化センターが共催で実施しているもので、今年の検討会には、秋田県由利地域振興局、由利本荘市、にかほ市、流域内の林業事業者・森林組合、森林整備センター、東北森林管理局資源活用課、由利森林管理署合わせて34名が参加しました。

午前は、紫水館(由利本荘市公民館)の研修室において、佐々木由利森林管理署長から林業の低コスト化に向けた取組など開会の挨拶があり、その後、室内研修として、当署高橋総括森林整備官から「これからの列状間伐について」として、1列伐採2列(3列) 保残の実施について、また、同資源活用課園部企画官から「線

り返しの使用に耐える壊れにくい道作り」として、森林作業道の崩壊メカニズムなどについて講義が行われました。その後の意見交換では、「民有林の列状間伐の実績は少なく、定性間伐の他に列状間伐の方法もあることを提案していくことが必要」などの意見があり、高橋資源活用課長からは、木材の低価格化が定着している現在、伐採・搬出の低コスト化には列状間伐を進める必要があると説明がありました。



室内研修の様子

午後は、手代沢国有林の生産請負箇所において、森林作業道と列状間伐（1列伐採3列保残）の現地検討を行いました。当署監督員と請負者の本庄由利森林組合の現場代理人から現地の概要、列状間伐の作業について説明があり、その後、列状間伐の選定方法などについて意見交換を行い現地検討会を終了しました。

現地検討会の模様は、後日、秋田さきがけ新聞に記事が掲載され子吉川流域における木材生産技術の取組をPRすることが出来ました。今後も低コスト化を目指し民国連携した取組を進めていきたいと考えています。



森林作業道と列状間伐の説明



列状間伐現地の確認

須川高原クリーンアップ活動について

秋田森林管理署 湯沢支署

須川高原クリーンアップ活動が10月25日（火）に行われ、栗駒自然休養林保護管理協議会及び栗駒山麓遊ゆうの会会員総勢約20名とともに当支署職員も参加し、特にゴミの散乱が多い国道342号線と県道仁郷大湯線沿線について清掃（ゴミ拾い）活動を行いました。



開会セレモニー

観光や登山で訪れる方々のマナーの向上もあり、それほど多くのゴミの散乱はないものの空き缶類のゴミが道路脇や駐車帯の奥の藪の中に捨てられているのが見受けられました。

当日は天候に恵まれたものの作業を行う標高1,100m付近は少し肌寒く、また、紅葉の見頃を過ぎた時期にも関わらず県内外の車両がたくさん行き交う中、2班に分かれて清掃活動を行い、参

加者は心地よい汗を流しました。



クリーンアップの様子

11月7日からは周辺道路が冬季閉鎖を迎えることから、来年の春の開通までしばしの別れを惜しみ現地を後にしました。

宮城県を対象とした一貫作業システム現地検討会を開催

技術普及課

10月13日（水）、宮城県白石市において一貫作業システム現地検討会を開催しました。

検討会の参加者は、宮城県内の森林整備センター・東北北海道整備局、県、関係市町村、森林組合、林業事業体及び森林管理局・署職員も含め約80名が参加しました。また、宮城県柴田農林高等学校森林環境科2年生の22名及び教員も国有林現場見学として参加しました。

午前は、白石市文化体育活動センターで基調報告を行いました。開会に先立ち、東北森林管理局松葉瀬

森林整備部長から「林業の成長産業化を実現しつつ、森林の多面的機能を持続的に発揮させていくためには施業の効率化と収益の確保により、森林の循環利用を確立していくことが重要となつていきます。また、主伐の拡大に伴い再造林の増加が見込まれる中、伐採跡地の確実な更新を図ることが必要であるため、森林施業の低コスト化が極めて重要です。」と挨拶がありました。

引き続き、森林総合研究所東北支所の天野森林資源管理グループ長による「一貫作業の効果と課題」と題する基調報告があり、平成25年から行っている秋田県湯沢市の国有林での試験結果などを交え、一貫作業における省力化の効果や課題などが報告されました。



天野グループ長からの報告

続いて、東北森林管理局森林整備部片倉企画官から「東北森林管理局の低コスト林業」と題して、平成25年からの試験結果と一貫作業システムについて説明がありました。

午後からは、白石市の国有林で一貫作業システムにより事業実行中の現地において、「チェーンソーによる伐倒」、「プロセッサによる枝払い」、「高性能林業機械による造材」のデモンストラーションを見学した後、コンテナ苗植栽に使用する様々なタイプの植栽器具の使用法や特徴の説明を行い、これらの器具を使用して、柴田農林高校の生徒をはじめ、参加者がスギコンテナ苗の植栽体験を行いました。



高性能林業機械での作業を見学

質疑では、「無地拵とした根拠は何か」、「全木集材とした場合の枝条等の整理はどのようにするのか」、「現地はきれいな現場を見たかった」、「枝条が残っているれば下刈時の刈払機によるキックバックなど安全面が心配。」などの意見が出されました。柴田農林高校の生徒からは「コンテナ苗植栽は思ったほど重労働では無かった。」「将来林業関係の仕事に従事したい。」などの感想がありました。

最後に、講評として東北森林管理局山北谷技術普及課長から「現在の森林は、戦後植林した林が収穫期に達しようとしています。一貫作業システムは、伐採から植栽までを一貫して行うことにより地拵などの造林経費の削減を図るものです。東北森林管理局としては林業経営費の削減に取り組み、その普及を図っていきます。」と締めくくり、現地検討会を終了しました。



コンテナ苗の植栽体験

「あつぴ高原遊々の森」 環境保全整備事業

岩手北部森林管理署

10月30日(日)と31日(月)、当署と

八幡平市との間で協定を締結している「あつぴ高原遊々の森」において、地元ボランティア団体「安比高原ふるさと倶楽部」との協働により、環境保全整備事業を行いました。

本事業は、かつて昭和40年頃まで、生活の中で営まれていた採草・放牧によって芝草原が保たれていた頃の美しい安比高原の景観を取り戻すために行っており、毎年の秋の野焼きのほか、平成26年度からは試験的に馬の放牧が行われています。



放牧している馬

当日は、紅葉もすっかり終わり雪が舞うような寒空の中、人の手が加えられなくなったことで草原に進入していた灌木やススキ等の草本を、鎌やレイキを利用して所々に集積し、火入れを行いました。野焼きと言うと、草原一面を燃やすイメージがありますが、安比高原では、芝や点在するレンゲツツジを保全するため、草原一面への火入れは行いません。



火入れの様子

野焼き作業開始時には、放牧している4頭の馬も興味津々な様子で作業を眺めていましたが、火入れが始まり周囲に煙が立ちこめると、耐えられなくなったのか、いつの間にか姿を消していました。31日には午後から雨が降り、作業は中止となりましたが、2日間の作業に、職員26人を含め、延べ約90名が参加し、怪我も火事もなく無事に終えることができました。



ジェットシューターで消火

当署では、今後も八幡平市や地元ボランティア団体等と連携し、より美しい安比高原の景観再生への取組を進めていきます。